

令和6年11月8日

第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会 「文化遺産保護と奈良文書—国際規範としての受容と応用—」を開催します

文化庁は、文化遺産国際協力コンソーシアムとの共催により、第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護と奈良文書—国際規範としての受容と応用—」を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

1. 概要

日本の世界遺産条約の締結を契機に、1994年に開催された奈良会議で採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」（奈良文書）は、その後の文化遺産の国際的な保存修復の考え方に大きな影響を及ぼしています。

本研究会は、本年が「奈良文書」の採択から30年の節目となる機会を捉えて、「奈良文書」が推し広げた「オーセンティシティ」の概念がこの30年間に世界の諸地域の文化遺産保護の現場でどのように理解され、いかに実践されてきたかについて、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの事例を通して概観し、その影響について議論する場とします。

日 時：令和6年11月28日（木） 10:00～17:30（開場9:30～）

会 場：東京文化財研究所 地階会議室（東京都台東区上野公園13-43）

プログラム：別紙チラシを参照

定 員：対面：50名（入場無料、事前申込制、先着順）

オンライン：無制限（事前申込制）

言 語：日本語・英語（同時通訳あり）

主 催：文化庁、文化遺産国際協力コンソーシアム

後 援：日本イコモス国内委員会

2. 申込方法

下記申込フォームよりお申込みください。＜申込締切：11月22日（金）＞

<https://reg31.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mgk-ljmilb-53e54d4605e30a73ca2b54e9d88f1ab5>

申込フォーム QR コードはこちら



3. 取材について

会場での取材を希望される報道関係者は、必要事項（別添）をご記入の上、11月22日（金）17時までに文化遺産国際協力コンソーシアム事務局（下記 E-mail または Fax）までご連絡ください。

(Email: consortium_tobunken@nich.go.jp)

(Fax: 03-3823-4027)

＜担当＞ 文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室 木南・川口・田辺 電話：03-5253-4111（内線 2870）

別添

第35回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会
「文化遺産保護と奈良文書—国際規範としての受容と応用—」
(令和6年11月28日(木) 10時00分～、東京文化財研究所 地階会議室)

取材登録票

1 御所属 _____

(フリガナ)

2 御氏名 _____

3 人 数 _____

4 電話番号 _____

5 メールアドレス _____

6 取材希望日 (○印をつけてください)

事前取材のみ ・ 当日取材のみ ・ 両方

取材希望日 (月 日)

7 持ち込む機材等 (○印をつけてください)

スチールカメラ ・ ムービーカメラ

文化遺産保護と奈良文書 — 国際規範としての受容と応用 —

30 years of the Nara Document
in the Global Context of Heritage Conservation

2024 **11.28** (木)
10:00–17:30 (9:30開場)

参加無料・要事前申し込み

共催:

文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

後援:

日本イコモス国内委員会



JCIC-Heritage



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

文化庁

会場

東京文化財研究所 地階会議室
(東京都台東区上野公園13-43)
定員: 50名(先着順)

オンライン同時配信 + 日英同時通訳

開催趣旨

日本の世界遺産条約の締結を契機に、1994年に開催された奈良会議で採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」(奈良文書)は、その後の文化遺産の国際的な保存修復の考え方に大きな影響を及ぼしています。「奈良文書」は、遺産の価値として地域に根差した固有の性格や成立の背景を含めた文化の「多様性」を認めることで、世界文化遺産保護の規範である1964年の「ベニス憲章」が掲げた「オーセンティシティ (authenticity = 信頼できること、出所の正しさ)」の理念を拡大する方向性を示しました。これにより、世界遺産として保護の基準を満たさないことが懸念されていた木造建築を中心とした日本の文化財修復の方法を国際的に妥当なものとして位置付ける道筋がつけられるとともに、その後は建築遺産のみならず遺跡や景観を評価する考え方の一つとして受容され、さらにはアジアやアフリカなど非西洋世界の多種多様な文化遺産保護の正当性の説明にも応用されるようになっていきます。

本研究会は、本年が「奈良文書」の採択から30年の節目となる機会を捉えて、「奈良文書」が推し広げた「オーセンティシティ」の概念がこの30年間に世界の諸地域の文化遺産保護の現場でどのように理解され、いかに実践されてきたかについて、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの事例を通して概観し、その影響について議論する場とします。

プログラム

10:00-10:10	開会挨拶・趣旨説明 岡田 保良（文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長/日本イコモス国内委員会 委員長）
10:10-11:40	セッション1：ヨーロッパ モデレーター:西 和彦（文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室世界文化遺産部門 主任文化財調査官） 発表1 「ヨーロッパにおける遺産保護のオーセンティシティ」 ・ベンジャミン・ムートン（歴史的記念物名誉総監察官/歴史的記念物主任建築家） 話題提供1 「宗教的・感情的遺産と「オーセンティシティ」の関係性ーパリ・ノートル＝ダム大聖堂修復からの検討」 ・坂野 正則（上智大学文学部 教授） 話題提供2 「ヨーロッパにおけるオーセンティシティの概念の理解の多様性」 ・アレハンドロ・マルティネス（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系 准教授）
昼休憩（80分）	
13:00-14:30	セッション2：アジア モデレーター:友田 正彦（文化遺産国際協力コンソーシアム 事務局長/東京文化財研究所 副所長） 発表2 「中国の文化遺産保護におけるオーセンティシティ」 ・呂 舟（清華大学国家遺産センター センター長・教授/中国イコモス国内委員会 副委員長） 話題提供3 「古材の有形的な価値ー日本の歴史的建造物の保存修理を例にー」 ・ウーゴ・ミズコ（学習院女子大学国際文化交流学部 教授） 話題提供4 「日本の文化財保護と世界遺産の仕組みの比較によるオーセンティシティの考察」 ・下間 久美子（國學院大學観光まちづくり学部 教授/日本イコモス国内委員会 副委員長）
休憩（15分）	
14:45-16:15	セッション3：アフリカ モデレーター:長岡 正哲（ユネスコナイロビ支部文化局 東アフリカ地域文化アドバイザー） 発表3 「アフリカにおける遺産のオーセンティシティ」 ・ジョージ・アブング（ケニヤ国立博物館 名誉館長） 話題提供5 「アフリカにおけるコミュニティ包括型建築遺産」 ・岡崎 瑠美（芝浦工業大学建築学部 准教授） 話題提供6 「現代の遺産論における課題ー理論と実践におけるアフリカの遺産の真正性に関する事例研究ー」 ・長岡 正哲
休憩（15分）	
16:30-17:25	パネルディスカッション モデレーター: 河野 俊行（九州大学 名誉教授/イコモス 名誉会長） コメンテーター: 西村 幸夫（國學院大學観光まちづくり学部 学部長） パネリスト: 上記各登壇者
17:25-17:30	閉会挨拶 青木 繁夫（文化遺産国際協力コンソーシアム 副会長）

申込方法

コンソーシアムWebサイトの申込フォームより、お申し込み下さい。
申込期限:11月22日(金)

お問い合わせ

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局
(独)国立文化財機構 東京文化財研究所文化遺産国際協力センター内
〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43
E-mail:consortium_tobunken@nich.go.jp
Tel: 03-3823-4841 Fax: 03-3823-4027